

着眼大局



滋賀銀行 専務取締役
吉田 郁雄

「今、未来を拓く」

日本経済は長年のデフレから脱却し、ベクトルが変わろうとしています。今後、すべてが“明るい時代”に、とは限りませんが、いつまでも下を向いているわけにはいきません。いよいよ私たち民間の出番です。確かな方向性を持ち、果敢に挑戦する時と実感します。

10年余りにNHKから放映されたテレビ番組に「プロジェクトX～挑戦者たち～」がありました。ほとんどが無名の日本人リーダーと、それを支えた人々による挑戦と努力の記録で、田口トモロヲさんの淡々としたナレーションが印象的です。

私は自らを鼓舞するため、番組の録画を見返しては、人々が失敗を恐れず、挑戦し続けた姿に感動しています。後から振り返

れば「なるほど」とはなりますが、当時、道なき道を勇気と情熱で切り拓いた人々の心境はいかばかりか、と思わざるを得ません。逃げることも出来ない状況で直面した大きな壁。突破を可能にするのは、リーダーの熱意と執念、チームワークだったのです。

さて、政府の成長戦略では、今後の10年間の実質GDP成長率を2%程度と設定し、市場創造プランの具体的な戦略として「健康長寿」「エネルギー」「次世代インフラ」「地域資源」を挙げています。

その成否の鍵は、まさに私たち民間の“取り組み”にあります。地域に根ざします当行は、地元経済の活性化を願って事業者の皆さまを支え、熱意と執念をもって「今、未来を拓く」との気概を新たにしています。

県内データ あれこれ

● 平成24年経済センサス—活動調査(小売業)

1事業所当たりの年間商品販売額は、全国10位の1億4,317万円

産業別でのトップは、「百貨店、総合スーパー」の約45億円

今回は総務省・経済産業省が公表している「平成24年経済センサス活動調査」から、県内の小売業についてみてみたい。

滋賀県の小売業の事業所数は10,779事業所で、「年間商品販売額」(注)の合計額は1兆1,798億円だった(平成24年2月1日現在)。それぞれ全国の1%程度を占めている。

次に、販売効率を示す「1事業所当たりの年間商品販売額」をみると、全産業の平均は1億4,317万円だった。全国平均の1億4,114万円をわずかに上回り、都道府県別では10位と、上位に入った(1位は東京都、2位は神奈川県、3位は埼玉県)。また近畿では6位の大阪府、9位の京都府に続く3番目だった。

最後に、産業小分類別にみると(下図)、29産業中でトップは「百貨店、総合スーパー」の44.8億円となり、他の産業に大差をつけた。次いで、「各種飲食品小売業」(5.2億円)、「燃料小売業」(3.4億円)

などが続いた。

少子高齢化社会に対応するため、全国的に店舗の小型化や複合化などさまざまな動きが始まっている。滋賀県は数少ない人口増加県であり、優良なマーケットとしてさらなる競争激化が予想される。今後の動向に注目したい。

(株)しがぎん経済文化センター 中村 雅臣

